

東日本大震災・福島第一原発事故から8年9か月、12月現在、
いまだ、福島県の避難者43,214人（内県外避難者31,148人）

2019年 双葉郡の主な出来事

今年も最後の通信になりました。2019年、双葉郡にもいろいろなことがありました。

* 檜葉町 Jヴィレッジ（広野町も）が再開。常磐道檜葉スマートインターが開通。

道の駅ならはが再開。スカイアリーナ（体育館）が開館。

* 富岡町 夜の森の桜並木 桜の時期、帰還困難区域内に入れる。

* 大熊町 4月10日、大川原地区・中屋敷地区で避難指示解除（福島第一原発の立地自治体では初めて）。常磐道大熊ICが開通

* 双葉町 帰還困難区域内の国道288号の一部区間が通行可能に

* 浪江町 イオンスーパーが開館

帰らない住民

福島第一原発事故から、8年9か月、避難している住民の多くが、町へ帰ってきません。

11月末現在、檜葉町（町内居住者3,899人/住民登録6,833人）、富岡町（1,158人/住民登録12,801人）、大熊町（721人（内帰還者80人）/住民登録10,308人）、双葉町（0人/住民登録5,915人）、浪江町（1,174人/住民登録17,201人）、葛尾村（（内帰還者330人）/住民登録1,410人）、飯館村（/住民登録5,499人）です。

特に、双葉郡の中心地である富岡町と浪江町で、一部区域で避難指示が解除されて、2年9か月が経つのに、町民の1割も町に帰っていません。

福島第一原発がある双葉町での「住民意向調査」（2017年10月～11月実施、調査回答数1,354世帯/3,133世帯中）では、「町に戻りたい」11.7%、「戻らない」61.1%、「まだ判断がつかない」28%です。

川俣町の山木屋小学校では、6年生3人が卒業して在学生在が0人となって、4月から休校になりました。

飯館村では、村に帰ってきた人も帰らない人も同じ村民であるということで、「二重住民票」を検討しています。また、新しく来てくれる住民のために、「交流⇒移住⇒定住」を呼びかけています。

新しく双葉郡に来る若者が増える

大学生の時に、ボランティア等で原発事故被災地に来て、自分と町の将来のことについて考えて、会社等に就職するのをやめて、双葉郡へ来る若者が増えています。彼ら彼女らは、地域町おこし協力隊や現地の公社やNPOなどに就職して、町の復興のために頑張っています。世の中、まんざら捨てたわけではありません。

今年もお世話になりました。皆さんにとっても来年が良い年でありますように！！



【新しい大熊町役場】



【バトミントンの桃田選手が卒業した 県立富岡高等学校（休校中）】